

しずおかの海と資源を守るための基盤的研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成29年度～)

担当：資源海洋科 海野幸雄

浜名湖分場 吉田 彰

伊豆分場 長谷川雅俊

【研究の背景とねらい】

- ・ 海(湖)の環境やそこに生息する資源は漁業の基盤です。これらの情報を継続的に収集し解析することで、長期的な変化や異常現象を把握・予測し、有効な対策を立てることが可能になります。
- ・ これらの最新情報と過去からの蓄積(データベース)はあらゆる水産研究の基礎となるものです。
- ・ 本研究では静岡県沿岸および浜名湖の環境情報として、水温や塩分分布等の海況情報と栄養塩、プランクトン等の水質情報、藻場群落等の生態系情報を定期的定量的に調査、モニタリングすると共に、それらの予測技術の向上を図ります。
- ・ さらに、有用漁業資源についてその漁獲圧力や資源量を継続的に調査解析し、環境予測と合わせて適切な管理技術の開発を目指します。

(平成28年度までの成果)

- ・ 海況情報を元に急潮情報を発行することで定置網の流出被害を防ぎました。また、一都五県で共有化した広域水温情報を基に毎日作成発行している関東・東海海況速報は、漁業者の日々の操業や県内のマリンレジャー情報として役立てました。
- ・ 浜名湖内のプランクトンの発生状況を監視することで、赤潮被害軽減に役立てました。
- ・ 毎年、県内主要漁獲物の資源状態の評価、漁獲予測を公表するとともに、資源管理指導を行いました。
- ・ これら最新情報を得るためのシステムと過去からのデータ蓄積は競争的資金研究にも活かされました。

【期待される効果】

- ・ 関東・東海海況速報の精度を向上させ活用することで効率的な漁場探索や安全な航行が可能となります。
- ・ 浜名湖の有害プランクトン発生状況を把握し、迅速に情報提供することで漁業被害の軽減に繋がります。
- ・ 環境情報と生物情報から資源動向を把握・漁獲を適切に管理することで、資源の持続的利用が図られます。
- ・ これらの環境及び生物情報を長期間蓄積することで、サクラエビなどの地域資源を守るための研究に活かされます。

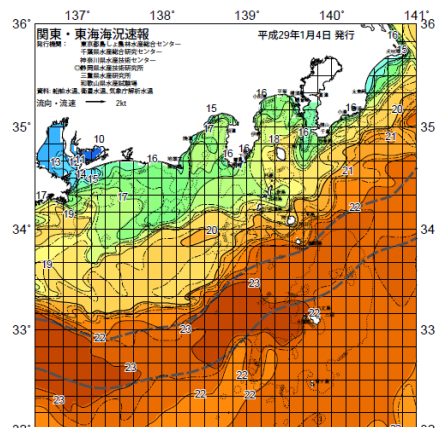


図1 関東・東海海況速報

小課題名	研究年度			研究内容
	29	30	31	
1 漁場環境のモニタリングおよび予測技術開発	○	○	○	・水温等の情報収集を継続し高精度海況速報を発行します。 ・浜名湖内の水質と赤潮をモニタリングし情報提供します。 ・磯焼け等の漁場生態系をモニタリングし情報提供します。
2 漁業資源のモニタリングおよび管理技術開発	○	○	○	①特産資源をモニタリングし適正な資源管理に役立てます。 ②海藻資源をモニタリングし適正な漁獲管理に役立てます。

(作成 平成29年4月)